



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行：横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷2-18-4 年2回発行（1月,7月）

年頭のご挨拶

横浜スペイン協会 会長 下山利明

2026年の新しい年を迎えるにあたり、皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げます。

毎年、年頭のご挨拶は1年間の振り返りから始まりますが、スペイン語クラス、スペイン・サロン、国際交流、対外交流の各分野にて、順調に事業を推進できたと認識しております。また、ここ数年来の課題であった、会員とスペイン語クラス生徒の減少化は止まり、経営面でも安定しひと安心しております。新規会員に数名の現役世代の方を含め5名の入会者がありました。さて、当協会はスペインにて桜の苗木の植樹を行い、文化・市民交流を行おうという目的で設立された協会ですが、これに関連し新たな活動としてロンダ、レオンに続き、第3の拠点として、5月バルセロナ郊外の IVARS D' URGELL（イバ尔斯）に、さくら植樹を実施しました。スペインでは、日本の漫画、アニメ、伝統文化に強い関心を持つ人達が急増し、バルセロナでは、私たちの想像以上に日本ブームになっております。イバ尔斯では4000人もの日本好きの人達が参加する日本祭のイベント会場で、さくら植樹セレモニーが行われ、密度の濃い文化・市民交流を行う事が出来ました。本年度も、イバ尔斯でのさくら植樹を考えております。今年も、引き続きスペイン語クラス運営を始め、各分野での事業を積極的に推進して参りますが、課題はあります。それは、運営を行う理事の固定化と高齢化です。会員の高齢化と共に、生活様式や考え方の多様化により、ボランティアをベースとした協会運営は年々、難しくなってきております。現実的な対応として、活動の優先順位付けを行い、小回りの利く協会運営を模索して参ります。現在、会員は、75名、日本におけるスペイン友好団体の中でも最大規模であります。引き続き、会員の皆様の積極的なサポートを期待しております。

2026年 横浜スペイン協会 活動計画

	総務・企画	スペイン語教室	スペイン・サロン	スペイン・サークル	会報
1月		新聞クラス特別公開講座		*旅でスペインを識ろう会 毎月第2月曜日 (8月はお休み)	新年号
2月		クラス委員会			
3月			文化講演会		
4月		前期講座 開始			
5月	定時総会・懇親会(6/6)				*スペイン文学に親しむ会
6月		新聞クラス特別公開講座			
7月					*巡礼サークル
8月		夏期文化講座			夏号
9月			文化講演会		
10月	National Day 式典	後期講座 開始			
11月					
12月					

●対外交流

◆Genís Castelló 氏ご家族来日歓迎会

2025年8月22日 大新園（元町中華街）

昨年5月に新たな拠点としてさくら植樹を実施した、バルセロナ郊外のIVARS D' URGELL（イバ尔斯）村の日本祭り実行委員長のGenís Castelló 氏ご家族が来日され、さくら植樹の参加メンバーと関係者にて歓迎会を開催しました。中華街の後は、外人墓地に眠るスペイン大使に興味があるとのことなので、皆で墓参をした後、港の見える丘公園を散歩しながら山下公園のシーバス乗り場から船で横浜駅まで移動するという、なかなか素敵なツアーになりました。その日も猛暑でしたが、二人のお子さん達は元気いっぱいに横浜を楽しんでくれていた様子でした。昨年の植樹イベントの際には、ご多忙な中、Genís 氏には、桜の苗木、プレートの手配、



セレモニーの準備など大変お世話になりました。イバ尔斯はロンダ、レオンに続き、三番目のさくら植樹拠点として、今後も継続的に現地の方々との市民交流を、積極的に展開して行きたいと考えています。奥様のMarionaさんはバルセロナでアニメ、コミック、イラスト関係の学校を経営されていて、ご夫妻ともマンガを通して日本文化に造詣が深く、歓迎会では日本のポップカルチャーの話で盛り上がり楽しい時間を過ごしました。（下山利明）

◆山形スペイン友好協会訪問

2025年10月5日 山形市 馬見が崎川河川敷公園

今年も恒例の山形スペイン友好協会が主催する芋煮会にお招き頂き、協会を代表して参加してきました。今回は、2016年の初めての参加から、昨年に続き、3回目となります。当日は天気にも恵まれ最高の芋煮会日和となりました。会場の馬見が崎川河川敷公園には、たくさんの他のグループも芋煮会を楽しんでいました。芋煮が仕上がった12時頃からスタートし、冒頭、武田会長のご挨拶に始まり、来賓挨拶にて、私から横浜スペイン協会の紹介と近況報告をさせて頂きました。参加者の皆様からの差し入れのスペインワイン、ビール、シェリー、ベルモットにて乾杯。スペインが大好きな人が集まり、お酒も入って、大いに盛り上がる中、さすがスペイン協会、薪火で作る村山シェフ特製の特大パエージャが登場。新鮮な魚介類、鶏肉、パブリカがいっぱい、見た目もとても鮮やかです。お味も最高で、堪能しました。たまたまNHKの芋煮の取材も来ていましたが、この特大パエージャに触れないわけにもいかなかったようで、全国ネットで紹介されました。



山形スペイン友好協会は、スペインのみならず中南米、関連友好市民グループとも交流があり、幅広い活動をされています。スペイン語の堪能な方も多く、最近は若い人も入会され、皆様とても元気で活気があり、スペイン談議に花が咲き、時間も忘れ、楽しい有意義な時間を共有出来ました。（下山利明）

◆ナショナルデーレセプション

2025年10月9日 ホテルオークラ東京

今年のナショナルデーに、本年4月に着任されたイニゴ・デ・パラシオ・エスパニーヤ大使初主催のレセプションがホテルオークラで催され、横浜スペイン協会の代表としてお招き頂き参列して参りました。



例年は大使館の庭園スペースでの屋外パーティーの形式ですが、今年は大使館に近いホテルの大宴会場で行われた華々しく大規模なものでした。新任大使の日本国に対する外交の姿勢と意気込みを感じられる場との印象を受けました。参加者は国会議員をはじめ、関係省庁、各国大使館、民間企業、そしてスペインとの係りがある様々な関係者などで、例年に比べて多くいらっしゃったように思います。スペインと日本の両国歌演奏のあと、大使のご挨拶がありましたが、スピーチは英語でされて、大型スクリーンにスペイン語と日本語の対訳が映しだされました。これは初めての経験です。日本からの挨拶は、初めに浅野健一郎環境大臣、その後城内実経済安全保障大臣、本田太郎防衛副大臣、生稻晃子外務政務官と続いて、乾杯の発声は平井卓也日本スペイン友好議員連盟会長が行いました。これら一連の挨拶の流れも、礼儀正しく形式を重んじていらっしゃる新大使の誠実さが感じられます。硬いスピーチの後は、皆各自に食事と飲み物を手に、和やかな交流の場となりました。ピアノ・ギター・巡礼など、スペインの文化を通してご活躍の方々とも交流を深め、また、毎年それぞれの親睦会に行き来している友好団体である、名古屋や山形のスペイン協会さんとの再会もあり、楽しいひと時を過ごしました。特に、山形スペイン友好協会さんが毎年行っている芋煮会のお話には皆さん大変興味を示され、美味しい芋煮をいただきたいみたい、と盛り上りました。

政治、経済の硬い話からお芋の話まで、短い時間をもりだくさんの話題とともにスペインナショナルデーを過ごし、ますますスペインという国に関心を深めた一日でした。（下山綾子）

◆「2025年日本・スペイン交流懇親会」～主催・名古屋スペイン協会

2025年12月11日 於 名古屋名鉄グランドホテル

恒例の名古屋スペイン協会主催の「日本・スペイン交流懇親会」に招かれ、下山会長と出席しました。私は初めての参加でしたが、名古屋スペイン協会は地元テレビ局の東海テレビが運営母体で、放送局出身の私としては以前から関心をもっていました。東海テレビの浦口史帆アナの司会で始まり、まずは同社の林社長のご挨拶。横浜スペイン協会設立より4年早い1986年設立で、現在の会員数は約70名、設立以来スペインとの文化交流等に積極的に取り組んできたとのお話でした。続いてご来賓の、イニゴ・デ・パラシオ・エスパニーヤ駐日スペイン大使のご挨拶。ご夫人も同伴のご参加で、会場内で時間をかけて参加者と親交を深めている姿が印象的でした。当日々国内のスペイン関連団体としては、当協会と神戸日西協会の鈴木副会長、尾辺理事が招待されました。



たが、4名が壇上に上がり、下山会長が代表して挨拶を述べました。ホテルの食事・ワインはとても美味しく、恒例の抽選会はスポンサーからの提供賞品も多く、大いに盛り上がっていました。パーティー会場で様々な関係者と情報交換をして、各々が抱える課題などを知ることができ、非常に有益でした。このような交流の機会をいただいた名古屋スペイン協会の相澤事務局長に改めて感謝申し上げます。（大戸正彦）

●スペイン語クラス

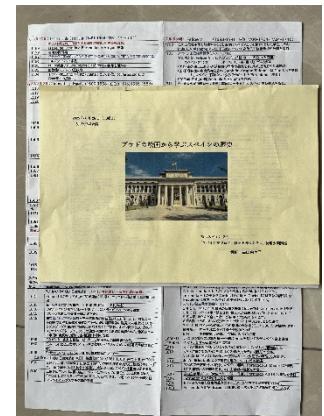
◆「新聞雑誌をスペイン語で読むクラス」特別公開講座のご報告 ～プラドの絵画から学ぶスペインの歴史

2025年6月28日 波止場会館

栗山先生作成の数十枚に及ぶ絵画と年表を合わせたレジュメを基に、2時間弱の講義はあつという間に終わりました。これほど丁寧にあらゆる情報を盛り込んだレジュメには出会ったことがなく、一見して大いに感動しました。

1469年、Castillaの王女IsabelとAragónの皇太子Fernandoが結婚。1492年にレコンキスタが完了して、スペイン王国が誕生。その後の7代に渡る子孫たちの約200年間。Diego Velázquezによる歴代の王や家族の肖像画が多数ある。それらは画家の重厚な筆使いで美化され、勇ましく、美しく、凛々しい。国力が隆盛の時代を特徴づける威厳さ、立派さを過剰に表現しているようだ。

1700年、Felipe V即位、Fernando VI, Carlos III, Carlos IVと続く約100年、ブルボン朝開始。近代となり国力が下降をたどる中、Carlos III(啓蒙君主)による工業の近代化と活性化はあったが、1789年フランス革命が勃発、そのフランスに従属する時代もあった。Francisco de Goyaが描く「Carlos IVの家族」には人間の表情に軽薄ささえ見える。またスペイン各地で起こったナポレオン軍の攻撃やそれに反発する民衆の反乱もGoyaはそのままに描いた。人々の恐怖、残酷さ、その悲劇は



恐ろしいほどに見る者に訴えてくる。これらは後のPicassoの「ゲルニカ」につながっているか。王国の成立から近代にいたるまで、繁栄、栄光、衰退と没落の歴史。アメリカ大陸発見による莫大な富の獲得、数々の戦争、宗教関係では異端審問の強化、宗教改革への対応、内乱、ナポレオンによる属国化、南米植民地の独立運動、フランスからの独立戦争などを経て近代国家へと至る約300年の歴史が立体的に学べました。(松本益代)



◆第15回夏季スペイン語文化講座に参加して

2025年7-8月 かながわ県民サポートセンター

今年5月に入会した橋本です。7~8月に開催された計4回の文化講座について報告いたします。最初2回の講師はVíctor Pérez Villuendas先生。現在のレバノン周辺にルーツを持つフェニキア人が紀元前9世紀ごろにカルタゴに都市を築き、その後、イベリア半島にまで進出していった経緯等を語ってくださいました。水産関連の職にある私にとって印象深かったのは貝紫Púrpura de Tiroのエピソード。当時、紫色の染料はある巻貝の分泌液が原料で貴重だったことから、高貴な家柄の者しか紫の服を着られなかつたそうです。この貝の近縁種(イボニシなど)は神奈川県の沿岸にも普通にいますので、ご興味のある方は是非探してみてください。



後半2回の講師はJuan Carlos Kirk先生で、アラゴン、ウベダ、バエサの世界遺産がテーマでした。「キリスト教とイスラム教は犬猿の仲」というイメージを私は持っていたのですが、先生によると「レコンキスタ後、イスラム教徒はスペインから追放されたわけではなく、税金を払いさえすれば居住が認められた」とのこと。ムデハル様式の建造物がスペインのそこかしこに見られるのも、こうしたある種の寛容さの反映

なのでしょう。

今回の講座は全てスペイン語で通訳無しでしたが、非常に聞き取りやすかったことも印象に残りました。DELE A1 の私でも 6 ~ 7 割は理解でき、急に語学力がアップしたような錯覚に陥るほどでした。これに油断せず、引き続きスペイン語学習に励みたいと思います。(橋本和正)

◆会話専門クラス、ディアロゴ開講

10月から始まった月1回第4金曜日開講のビクトル・ペレス先生による Diálogo クラスは、初・中級レベルのスペイン語会話を目的としたクラスです。

訪日旅行者やスペイン語圏の友人に日本の文化・歴史・習慣・観光情報などをスペイン語で伝えられるよう、毎回異なるテーマに沿って授業が進められます。事前に先生からテーマが与えられ、各自が準備してきた意見や考えを自由に発表・交換し合う形式です。私は6月のお試し企画時から参加しました。テーマは「仏教と神道」「和食」「おすすめの観光地」など身近なものでしたが、いざスペイン語で説明しようとするととても難しく、日本のことを探り深く理解し、正確に伝える力の大切さを実感します。

私は時々スペイン語のボランティアガイドをしていますが、訪日旅行者に日本の魅力をもっと伝えたいという思いとは裏腹に、表現の難しさにもどかしさを感じことがあります。このクラスでの学びは非常に実践的で、役に立つと思います。クラスは今のところ少人数で女性が中心です。旅行やグルメなど身近な話題で盛り上がるのもこのクラスの楽しいところです。ビクトル・ペレス先生は常に一人ひとりの話に耳を傾け、意図をくみ取りながら的確に助言し、会話が深まるように導いてくださいます。また、時に私たち以上に日本文化、習慣、歴史の造詣が深く感心します。文法の基本、語彙力等これまでに学んだことを生かしながら、一緒に楽しく会話力を伸ばしてみませんか？(矢澤和美)

●スペイン・サロン

グローバル化の起点としてのコロンブスとコルテス 動植物・病原菌の移動と日本人移民を含めて

2025年7月19日 波止場会館1F

講演者：流通経済大学名誉教授 関 哲行先生



最初のテーマの覇権国家については、歴史上、海(船)を支配した国、即ち 15-16 世紀のスペインとポルトガル (1494 年トルデシージャス条約)、16 世紀後半から 17 世紀にかけてのスペインの国力衰退の時代 (1588 年スペインの無敵艦隊敗北、1618-1648 の 30 年戦争の結果としてのオランダの独立) 東インド会社を中心とした覇権国家オランダ、その後の 7 年戦争の結果フランス・スペインが英国に完敗、さらに 1805 年トラファルガーの海戦で大西洋における制海権はイギリスに移り、覇権国家英國の時代へと、そして現代は海・船の時代から航空機・ミサイルの時代となり覇権国家はアメリカ？と言った話の導入部も指針に富んだものでした。

取り上げられたテーマのコロンブス (1451-1506)、エルナン・コルテス (1485-1547)、“グローバル化と日本人移民の時代”は、スペイン史上ではイザベル・デ・カスチージャとフェルナンド・デ・アラゴンの結婚 (1469)・グラナダ王国滅亡・ユダヤ人追放のトラスタマラ朝、カルロス I 世に始まるハプスブルグ朝、フェリペ II, III, IV 世、カルロス II 世の時代を経て、フェリッペ V 世のブルボン朝 (1700) の始まり迄に、豊臣・徳川時代のザビエルなどの布教活動、山田長政、高山右近等の東アジア、東南アジアの活動も網羅されよう。先生の講演の特徴は、単なる歴史の叙述だけにとどまらずコロンブスの西インド諸島発見をコロンブス個

人の野望、巧妙な知恵、アラブ世界の天文学や地理学の活用、最新の航海術、カラベラ船とナオ船の使用、1492 年の終末論やメシア思想に突き動かされた点、金と香辛料を求めるジェノバ商人の心情などに言及されたものであり、この点はアステカ征服とエンコミエンダのエルナン・コルテスの現世的利益と神的使命の融合にも見られ、インディオの改宗と終末論に触れております。アメリカの発見、中南米へのスペイン人移民とコンキスタドールに始まるグローバル化は動植物と病原菌の移動も伴いながら、17 世紀日本人の移民にもつながる講演でした（山崎宗城）

歴史の中で育まれた「スペイン」—異種混淆的な文化形成

2025年10月25日神奈川県民センター



講師：神奈川大学外国語学部スペイン語学科教授 黒田祐我氏

スペインを旅する者は他の西洋諸国とは明らかに違う雰囲気を感じます。中世から近世（5世紀～18世紀）にかけてイベリア半島がたどってきた歴史的なプロセスが如何にこの「違和感」を生み出したのか具体的な事例を紹介しながら考えるのが講演のテーマです。

スペインの独自性を形成した様々な具体的な事例を紹介された後でスペインに感じる「違和感」の正体として下記4項目をあげられました。

- ① 古代地中海文化 ② 中世レコンキスタ時代の衝突と交流 ③ 近世スペイン帝国時代のグローバルな接触 ④ 近代に復活した前近代の風景。

私はスペインを旅して建築物に違和感を覚えたことがあります。例えばそれはセビージャのヒラルダの塔（モスクのミナレットとその上に付け加えられた鐘楼）、コルドバのメスキータ（内部に付け加えられたキリスト教会）など、異文化の衝突による異なる様式が併存し混じり合わないハイブリッドな建築物を目の当たりにした時でした。また、パエージャは地中海（魚介類、オリーブ油）、異教徒（米、サフラン）、ラテンアメリカ（トマト、パプリカ）の異種混淆的文化から生まれたとの説明にスペインのグローバルな接触による多様性を強く感じました。（宮岡栄一）

●スペイン・サークル

◆旅でスペインを識ろう会

①2025年7月14日(月)

「パックツアーでやっと念願のイグアスへ」開催（佐竹信一さん）

②2025年9月8日(月)

「サンタンデール留学記2023」開催（志賀智広さん、志賀裕美さん）

③2025年10月20日(月)

「私の1969年のスペイン初体験、そしてスペイン内戦とは?II」開催（法政大学名誉教授 川成洋先生）

④2025年11月17日(月)

「マドリッドのサン・イシドロ祭」開催（真木さん、岩田さん、江口さん）

⑤2025年12月8日(月)

「5月～6月のサンチャゴ巡礼800km」（問屋さん）

*旅の会は8月を除き毎月第2月曜日の3時から、かながわ県民センターにて開催します。発表内容は、スペイン国内、スペイン語圏を旅された方々の旅行記、その他に関連した歴史、建造物、お祭り等です。

◆シネマサロン

「入国審査」「Upon Entry」



監督・Alejandro Rojas, Juan Sebastian Vásquez 2023年 スペイン

スペインからアメリカへの移住を目指すカップル。女性（エレナ）はスペイン人のダンサー。男性（ディエゴ）はベネズエラ出身、バルセロナに住む都市設計デザイナー。ドラマはニューヨーク到着の寸前から始まり入国審査へ。パスポートを見せると取調室へ。なぜアメリカへ来たいのか、EUのどこの国にも住めるのに。エレナには、ダンスはなに？コンテンポラリーと答えると、パフォーマンスをしてみろ、ディエゴには都市設計は実際にしていたのか、などなど厳しい審査に二人は戸惑う。ディエゴが事実婚のエレナ（抽選ビザに当選している）を利用して入国しようとしていると疑われる。彼は以前インターネットで知り合ったアメリカ女性と婚約していることを理由に入国を試み失敗していたことがわかる。二人がスペイン語でやり取りをしていると、女性審査官が分け入って来る。スペイン語が解るので。この時の言葉の切り替えと女性審査官の眼の鋭さにはドッキッとさせられる。個別の審査に進み、相手に対する気持ちなど執拗な問い合わせに疲れ果て、特にエレナはディエゴの母国の政情不安に同情するものの彼の過去も知らされて苦しむ。ディエゴも侮蔑的で強引な質問に絶望的になる。といえば、彼は到着前から落ち着きのない様子だった…。ようやく待合室で一緒になるが二人とも言葉を交わせない。エレナの眼もとには涙が見える。しばらくして名前が呼ばれる。「我が國によるこそ！」の審査官の言葉、パスポートに押されるスタンプの音が響く。驚き喜ぶ二人の顔が大写しにされる。移民問題の知られない部分に焦点を当て、両監督（共にベネズエラ出身）自身と友人たちの経験から脚本を書いたという。尋問室の内装や審査官の口調など細部の描写も苦々しい記憶に基づいているという。（松本益代）

2026年度さくら植樹イベントについて

昨年、5月24日にカタルーニャ州 Ivars d'Urgell（イバルス）にて、さくら植樹を実施致しました。この日は、当地で毎年開催される MATSURI DE PONENT という日本好きのスペイン人が約4000人集まるお祭で、その中の一つのイベントとしての植樹でした。（詳しくは、2025年7月1日発行 AIYES 通信第111号ご参照）本年度も、この日本祭が開催される予定で、2026年5月23日（土）開催決定との連絡が届きました。このお祭は、参加される現地の沢山の方々との文化・市民交流の絶好の場であり、また、イベント主催者からの強い要望もあり、今年も、さくら植樹を予定しております。イベントは、この日、1日のみで基本的には現地集合、現地解散とします。このイベントの前後にスペインの各地を旅行するのも良い機会かも知れません。会員の皆様、是非とも参加のご検討をお願いします。詳細が決まり次第、メール、ホームページ等で会員の皆様にはお知らせ致します。（下山利明）



カタルーニャの夏も暑かったようですが、関山桜は大切にお世話をしてもらって元気です。

お祭実行委員長の Genís ファミリーから（2025.11）



* * * 協会からのお知らせ * * *

◎ 《年会費振込のお願い》 *重要

2026年度会費を、下記要領にてお振込みのほど、よろしくお願ひします。

1. 年会費 会員 3,000円 賛助会員 10,000円

2. 振込先 みずほ銀行 鶴見支店 (店番号 362)

普通預金 口座番号 2518340

口座名義 横浜スペイン協会

3. 振込期限 2026年3月25日 (2026年1月1日より振込受付開始)

《注意事項》 誠に恐縮ですが、振込手数料は会員様にてご負担をお願いいたします。

振込期限までにお振込み頂けた場合、2026年度ホームページの会員専用ページへのアクセスパスワードをご連絡いたします。

当協会の運営経費は年会費によって維持されています。振込を失念し、事務局からの連絡で振込をされる会員様が毎年散見されます。原則的に振込期限を過ぎて未納の場合には会員資格の継続の意志無し、と判断させて頂きますので、ご留意下さい。

◎ 《新春親睦パーティー 開催中止のお知らせ》

これまで新年の恒例行事でした「新春親睦パーティー」の開催を、今年度より中止させていただきます。例年会場となっていました「KKR ポートヒル横浜」は 老朽化のため解体予定で、現在休業中ですが、この機会に懇親会の在り方を理事会にて再検討した結果、協会運営と連動した懇親会に衣替えいたします。具体的には、定時総会後に会員相互の親睦を図る懇親会を企画します。会員皆様には詳細決定次第、追ってご案内をさせていただきますが、現時点での予定は以下の通りです。

定時総会：2026年6月6日（土）10時～12時 会場 波止場会館会議室

懇親会： 同日 12時～14時 会場 波止場会館1F SALA

以上、皆様のご理解を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ 関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Espanol	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア1杯無料

【編集後記】 AIYES 通信第1号の発行は1990年11月でした。1997年からは年4回の発行となりましたが、2024年1月（第108号）より年2回にいたしました。今どき紙の印刷物は…というお声もあるようですが、私は当協会会員の皆様のお手元に郵便でお届けすることは大切と考えています。インターネットで自ら情報を得ることが多いこの時代に、協会の活動を一方通行で受け取っていただいているのですから、責任大です。これがもしSNSの発信ならば、イイね！をもらえるような、読み物として面白い冊子にしていきたいです。指1本でイイね！はうらやましいです………ご面倒でもメールでのイイね！お待ちしています。

編集長/下山綾子 編集委員/ 岩田岳久 大戸正彦 下山利明 原健三郎 松村清

投稿寄稿宛先 E-mail

全般 : info@yokohama-spain.jp

スペイン語教室: spanish_class@yokohama-spain.jp

スペイン・サロン:spain_salon@yokohama-spain.jp

横浜スペイン協会 ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp>